

青森市のＪＲ青森駅自由通路の駅前アートギャラリーで、青森第一高等養護学校の生徒たちが制作した織物や革製品などが展示されている。生徒たちは「心を込めて作ったので、たくさんの人に見てほしい」と呼びかけている。30日まで（延長の可能性あり）。

同校の生徒たちは、職業教育の一環で、手工芸品などの制作に取り組んでおり、2014年からは独自ブランド「ティネイ」を立ち上げて製品を学校祭などで販売している。

同ギャラリーには、生徒が糸を織って作ったポーチや、牛乳パック

手製の織物、革製品 見て！

青森駅 青森一高養生作品を展示

クをリサイクルした手すき和紙を使ったティッシュケース、革のキーケースなどが並ぶ。

22日は、同校の3年生6人が校外学習で同ギャラリーを訪問。生徒たちは自分が作った製品を見て回り、製品と一緒に記念撮影するなどしていた。

柿崎優斗さん（17）は「ポーチは、自分の好きな青と緑の糸を使って作った。入学してからいろいろなものを作っているので、かなり上達した」と笑顔。福井守優さん（同）は「ティッシュケースは和紙を糸で縫い合わせて作っている。一針一針丁寧に縫ったので、細かいところも見えてほしい」と語った。（工藤慎子）



自身が作った製品を見て回る生徒たち



生徒が制作したポーチやティッシュケースなど

※この画像は、該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです
（令和7年7月24日（日）掲載）